

[団 体]

たろうちょうぎょぎょうきょうどうくみあいじょせいぶ
田老町漁業協同組合女性部

住 所 岩手県宮古市田老字荒谷2番地

代 表 者 部長 入澤 幸子

<功績の概要>

同部では河川環境の保全と主要漁獲物であるアワビ、ウニなどの漁獲増のため、「磯焼け」を防ぎ、餌となるコンブなど海藻類が繁茂するよう、海岸から約10kmの奥山を借用し「婦人の森」として平成5年からコナラを主体に広葉樹の植樹を継続している。

当初の参加者は20人台、300本ほどの植樹だったが、近年は部員に限らず一般参加者もあり、植樹数も近年は毎年1,000本を超えている。「森は海の恋人」と、森と川、海の関連性を研究、植樹を実践している先駆者から学んだりもしながら継続してきた植樹活動は、13年目となる平成17年で総数が1万本に達した。また、海を守る活動としては合成洗剤追放運動も30年以上続けている。

これらの活動が認められ、平成15年の「みどりの日」に環境大臣表彰を受けた。

その後も植樹活動は継続し、現地には「婦人の森」の看板も掲げている。

また、その活動は県内小学校にも刺激を与え、体験学習として同地に植樹を継続するようにもなっている。

[団 体]

ど
ん
ぐ
り
1
0
0
0
年
の
森
を
つ
く
る
会

住 所 宮崎県都城市山之口町富吉2985-26

代 表 者 会長 樋口 信義

<功績の概要>

宮崎県都城市一帯を流れる大淀川の上流域には、雨水を浄化し、それを大淀川に環流し、川や森、そしてそこに息づく生命体に大きな恵みを与えてくれる照葉樹の森があった。

その森本来の機能を取り戻し、私たちの生活を育む自然風土を後世に引き継ぐことを目的に、どんぐり1000年の森をつくる会は、平成8年に結成し、照葉樹の森を再生するための活動を開始した。

翌年から、毎年、大淀川流域の国有林にどんぐり(シイ・カシ)の苗木の植樹を続け、その数は80,000本を超えた。

最初に植えた苗木は、今では5～6mほどに成長し、森の沢筋には水が流れ、照葉樹の森の再生に着実な成果をあげている。

また、「どんぐり株主制度」というだれでも協力できるユニークな制度を創設し、市民参加型のシステムにより、県の森林づくり、森林教育の推進に大きく貢献している。